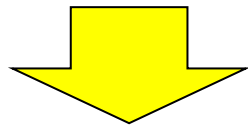


家族介護者交流会について

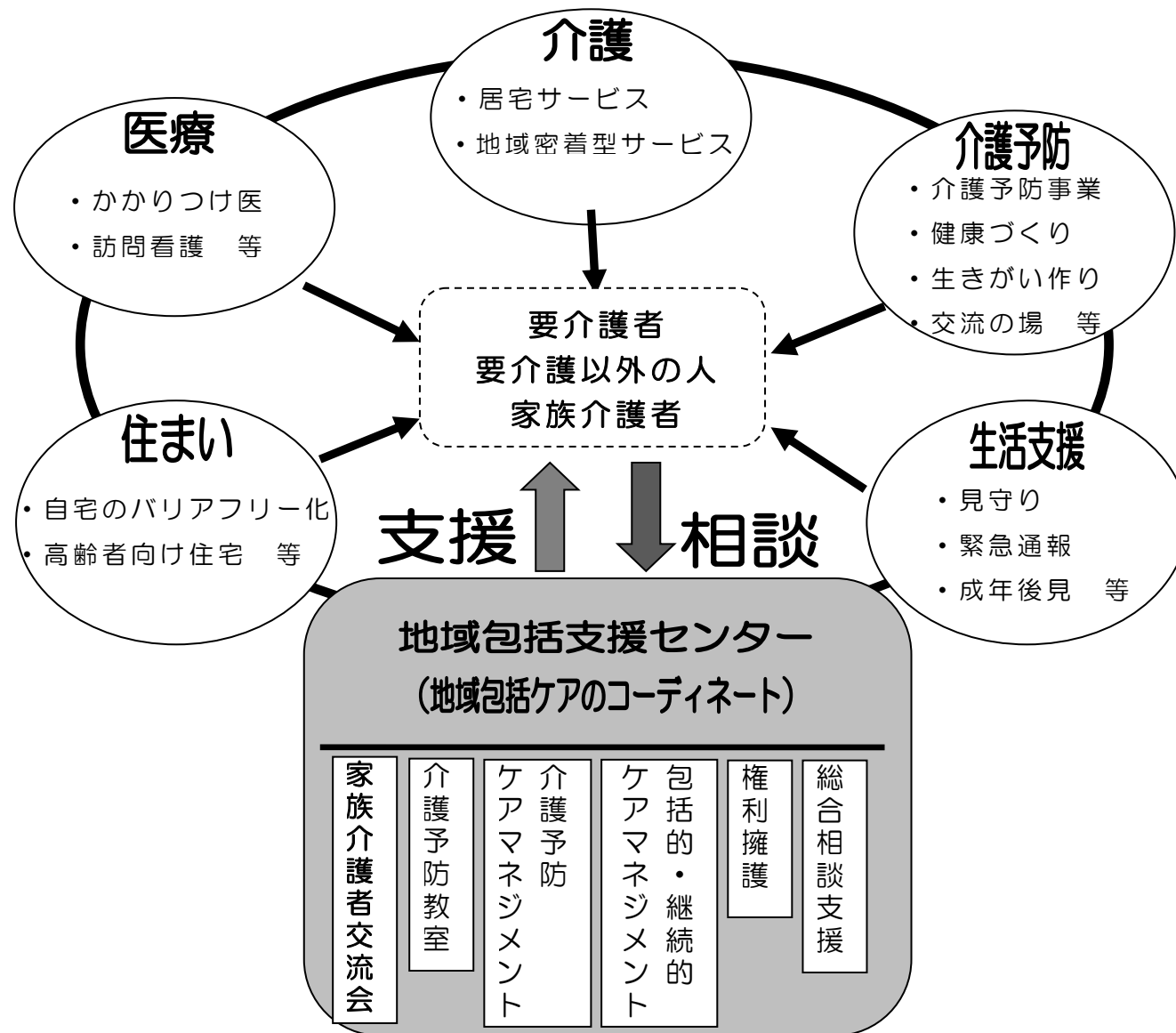
目的

- 1 介護に対する精神的な不安や孤立感を取り除く
- 2 介護から開放されることによる気分転換
- 3 介護に対する悩みや思いを共有できる関係づくりの機会の提供



住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指しており、その中で地域包括支援センターによる家族介護者への支援業務を強化する必要がある。そのため家族介護者交流会を地域包括ケアシステムに位置付けて実施する。

<地域包括ケアシステムイメージ>



事業の内容

- 1 地域包括支援センター単位で、年3回以上開催する。
各担当区域内に居住する人を基本とし、小グループ（30人程度）での実施とする。
- 2 参加者の趣味や嗜好を考慮した上で、参加者同士の間人関係を作るきっかけとして交流会を開き、介護者の心のケアや意見交換を行う。
また、必要に応じて参加者から負担金を徴収する。

<モデル事例>

- プランター等で野菜作りを学び、気分転換を行う。
- バスを利用して知多郡東浦町「あいち健康プラザ」等に見学に行く。

- 3 各地域包括支援センターの担当区域内で利便性（公共交通機関を使わない、徒歩圏内等）を考慮する。
（例：ふれあいの家、公民館、喫茶店、空き店舗、お寺など）
- 4 介護者の思いや悩みに対し、より踏み込んだ相談ができるよう個別相談の機会をつくる。
- 5 将来的には、参加者同士が自発的にグループを作り、地域包括支援センターからの支援を受けて地域で活動することを目指す。